

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
平成30年5月30日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所 愛知県知多郡武豊町字川脇34-1	
氏 名 ユタカフーズ株式会社	
代表取締役社長 橋 本 淳	
電話番号 0569-72-1231	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	ユタカフーズ株式会社
事業場の所在地	愛知県知多郡武豊町字川脇34-1
計画期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	09：食料品製造業
②事業の規模	製造品出荷額：22,191百万
③従業員数	374人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	動植物性残渣 →中間処理業者を通じ、飼料・堆肥化 汚泥 →中間処理業者により堆肥化 廃プラスチック類 →中間処理業者を通じ、燃料・再資源化 紙袋 →中間処理業者を通じ、再資源化 廃油 →中間処理業者を通じ、再生・飼料化 廃酸 →中間処理業者を通じ、堆肥化・焼却処分 混合物 →中間処理業者を通じ、選別・再資源化 木くず →中間処理業者を通じ、選別・木質燃料化 水銀使用廃棄物 →中間処理業者を通じ、破碎選別リサイクル化 廃アルカリ → 中間処理業者を通じ、焼却処理 ガラス陶磁器くず→ 中間処理業者を通じ、選別・再資源化

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

工場長（廃棄物処理総括責任者）

↓

省エネ委員長（廃棄物処理管理責任者）

↓

工務課（廃棄物処理管理者）
(特別管理産業廃棄物管理責任者)

└─▶ 廃棄物管理委員会（部門別廃棄物管理委員8名）

・液体調味料課 ・粉粒体調味料課 ・カップ麺課 ・生油揚げ麺課

・物流課 ・研究開発課 ・事務所 ・営業課

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	汚泥
	排出量	2260.75 t	540.44 t
	※別紙のとおり（添付書参照） (これまでに実施した取組) ・各部門での環境目標として、歩留まり向上をテーマとして取り組む事で、廃棄物発生量の抑制に努めてきました。 ※新規生産ラインの多数移設に伴い、生産設備の安定稼働までの調整ロスが想定以上に発生してしまいました。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	汚泥
	排出量	2147.71 t	513.42 t
	※別紙のとおり（添付書参照） (今後実施する予定の取組) ・設備の安定稼働への改善対策を継続実施します。(歩留まり向上) ・対前年排出量5%削減を目標とします。 ※動植物性残渣については増加傾向のため、5%以上削減を必須とし前年度計画値をクリアできるように努めます。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・約13種類の産業廃棄物に対して、さらに細分化した品目を分別管理しています。主体の動植物性残渣については、処分方法に応じた荷姿・分別の明確化に努めています。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・動植物性残渣の発生形態の多様化に対して、処分方法に応じた分別の簡素化を図り、関連作業の軽減を目指す。また、分別の専任要員の活用も検討して行きます。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
	・該当なし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
	・該当なし。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
・該当なし。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
・該当なし。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（平成２９年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	０ t	０ t
	(これまでに実施した取組) ・ 該当なし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	０ t	０ t
	(今後実施する予定の取組) ・ 該当なし。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（平成２９年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	汚泥
	全 処 理 委 託 量	2260.75t	540.44 t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	1437.16 t	540.44 t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	823.59 t	t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	t	t
	※別紙のとおり（添付書参照） (これまでに実施した取組) ・ 飼料化リサイクルとして、畜産事業者との処理契約の追加を行う。 ・ 処分先の現地確認を実施。(処理状況の適否確認) ・ 中間処理業者による廃棄物の現状確認および、処理提案を検討。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣	汚泥
	全 処 理 委 託 量	2147.71 t	513.42 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	1365.30 t	513.42 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	782.41 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	※別紙のとおり（添付書参照） （今後実施する予定の取組） ・飼料化が可能な品目に関する、有価売買への転化を検討。 ・脱水汚泥の減容化を検討。 ・自社内対応での廃棄物の減量対策。		
	※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

平成30年度、産業廃棄物処理計画書(添付書)

2018/5/30

単位(t)

項 目			産業廃棄物の種類										
			動植物性残渣	汚泥	廃プラスチック類	紙袋	廃油	木くず	混合物	廃酸	廃アルカリ	ガラス陶磁器	水銀使用廃
産業廃棄物の排出抑制に関する事項	①現状	排出量	2,260.75	540.44	182.88	57.48	117.62	2.62	13.44	2.31	2.10	0.53	0.43
	②計画(目標)	排出量	2,147.71	513.42	173.74	54.61	111.74	2.49	12.77	2.19	2.00	0.50	0.00
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項	①現状	再生利用量											
	②計画(目標)	再生利用量											
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	①現状	熱回収処理											
	②計画(目標)	中間処理											
	①現状	熱回収処理											
	②計画(目標)	中間処理											
自ら行う産業廃棄物の埋立・海洋処分に関する事項	①現状	埋立処分量											
	②計画(目標)	埋立処分量											
産業廃棄物の処理の委託に関する事項	①現状	全処理依頼量	2260.75	540.44	182.88	57.48	117.62	2.62	13.44	2.31	2.10	0.53	0.43
		優良業者委託量	1437.16	540.44	182.88	57.48	1.06	2.62	13.44	2.31	2.10	0.53	0.43
		再生利用業者委託量	823.59				116.56						
		認定熱回収業者委託量											
		認定以外熱回収業者委託量											
	②計画(目標)	全処理依頼量	2147.71	513.42	173.74	54.61	111.74	2.49	12.77	2.19	2.00	0.50	0.41
		優良業者委託量	1365.30	513.42	173.74	54.61	1.01	2.49	12.77	2.19	2.00	0.50	0.41
		再生利用業者委託量	782.41				110.73						
		認定熱回収業者委託量											
		認定以外熱回収業者委託量											

※前年対比5%の削減を目標とします。